



千代田まちづくり

サポート通信

2003年1月発行

No.8

編集・発行 (財)千代田区街づくり推進公社 企画情報課

東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館2階
TEL.03-3262-0211 FAX.03-3262-0213

公社ホームページ <http://www.chiyoda-machidukuri.or.jp>

E-mail:kosha@chiyoda-machidukuri.or.jp

第4回「千代田まちづくりサポート」の活動成果を8団体が発表

子どものアイデアで新商品も 地域に根ざした感度の高い活動



4回目の「千代田まちづくりサポート」活動成果発表会が2002年9月28日、千代田区役所10階会議室で開かれた。8団体のうち半数が初めての参加ながら、地域のお年寄りたちや児童館、学校を巻き込んで、世代を超えたコミュニケーションを展開した。「子どもと一緒にデザインしよう会」をはじめ、各グループが地域に根ざした発想で感度の高いレポートを発表し、今後の活動に審査委員たちの期待を大きなものにした。

3年連続3回目の発表をした「番町まちづくり文学館」「花咲かじいさん」は、助成対象最終年度であり、これまで着実に積み上げてきたデータを深く掘り下げて活動してきただけに、会場から今後の自主活動を応援する大きな拍手が送られた。

また、蕎麦を使って街おこしをねらっている「江戸神田蕎麦の会」の活動では、蕎麦屋さんの連携だけではなく、子どもたちから応募のあった新メニューを店の商品に取り込んだり、福祉活動として“高齢者への蕎麦の出前”をする見通しもたち、活動の急成長に「感服」した審査委員もいた。

どの発表にも千代田区で暮らしている愛着が感じられ、さらに暮らしやすくするためにも、次代につなぐことも視野に入れながら、住民、商店、企業の強いネットワークが必要とがんばっている。こうした呼びかけに高校生らが初めて参加したケースも報告され、今後の活動に期待が膨らんでいる。

【審査委員＝敬称略】

会長：卯月 盛夫

(早稲田大学教授)

副会長：北沢 猛

(東京大学助教授)

委員：伊東 敏雄

(賛助会員)

平岩 千代子

(電通研究室研究員)

田畑 秀二

(日本学術会議 神田(財)新会長)

(まちづくりサポートOB)

森 まゆみ

(作家・地域誌編集人)

渡辺 滋

(千代田区まちづくり推進部長)



修了証を受ける「番町まちづくり文学館」の方々

目次

(頁)

【発表グループ・発表順】

(2～5)

◎江戸神田蕎麦の会

(2)

◎子どもと一緒にデザインしよう会

(2)

◎千代田活性化アート活動研究会

(3)

◎(NPO)学習環境デザイン工房

(3)

◎秋葉屋ドットコム

(4)

◎番町まちづくり文学館

(4)

◎花・風の会

(5)

◎花咲かじいさん

(5)

【審査委員総評・講評】

(6～7)

【千代田まちづくりサポーターズクラブ概要】

(8)

【賛助会員一覧】

(8)

おいしい蕎麦を使って街おこし

江戸神田蕎麦の会【参加2年、助成金20万円】

子どもたちにもお蕎麦のおいしさを知ってもらおうと、手打ち蕎麦教室を開いた。地域のお蕎麦屋さんや蕎麦の文化を知り、まちの歴史や文化に触れてもらうのが目的だ。

さらに、「こんな蕎麦たべたいコンテスト」を実施。地元の小学校と児童館にポスターを貼ってもらい、お蕎麦とお蕎麦屋さんのアイデアを募集した。300通もの応募があり、ユニークなメニューを新メニューに取り入れた店もある。

千代田小学校の校長先生も来てくれて、今後もやってほしいという小学校や児童館があるので、できるだけ子どもたちと接していく。

コンテストの金賞作品の写真でうちわを作り、それを持ってお蕎麦屋さんに行くツアーも企画。子どもが来ると、親も来るので、相乗効果がある。

また、在住、在勤者には区の教養講座として手打ち蕎麦教室を開催。その卒業生から「蕎麦の実会」と「神田蕎麦研究会」



が生まれた。その人たちともこのサポート活動と一緒にできればと考えている。

その延長として蕎麦のご長寿蕎麦配食サービスができないかと社会福祉協議会からご提案があったので実施の予定。

サポートに関しては、今年は勉強会をやる。多くの現代アートや美術大学の先生を招いて、銀座や水戸の商店街などにギャラリー・ツアーもした。アートと商店とのつながりを研究していきたい。

☆

Q 卯月 ここまでやったか、という感じで驚いた。教育、福祉、芸術、いろんな分野を取り込んで、キー・ポイントは子ども。子どもにアプローチするには学校の壁が高いと思うが…。

A このサポートの「子どもと一緒にデザインしよう会」に協力していただき、顔見知りの校長先生も紹介された。

特に千代田小学校は授業の一環としてコンテストをしてくれた。これはみなさんも参考にさせていただければと思う。

Q 伊東 長寿の配食サービスの活動の資金などはどのようにするのか？

A 社会福祉協議会と三菱地所のご依頼をお年寄りの健康のためにお受けした。店に来られない方にはこちらから出向いて蕎麦を食べてもらおうと考えた。

Q 北沢 アートはどのような予定？

A 02年10月19日から、第2回のサポートを開催するためポスターを貼った。銀座や水戸で学んだことで街にどうアートを活かすか、可能性や方向性が見えてきた。

併せてかるたにして遊んだ。

活動を通して、方法も大切だが、何よりも自分たちの意識が大事だと思った。今後も「まちたちっ！」などを継続して行いたい。

☆

Q 卯月 地域や参加する子どもたちの広がりはいかが？いつも同じ子どもたちが集まりやすいものだが…。

A 企画段階から子どもたちが参加する楽しさが口コミで伝わっていったと思う。準備期間に時間をかけたことも広がりになったようだ。

Q 北沢 6つのワークショップの相互関連は？

A 週1回の定例会で連絡をとり合い、協力しあった。イベントは並行して行うこともある。これからは相互に評価するのも大切だと思う。

Q 平岩 最近は親が子どもを他人任せにする傾向があるそうだが、この活動は親も巻き込んでいくのか？

A 一緒にやるのが最終目標。「まちたちっ！」でも、子どもが先生になったり、おとなが先生になったりすることを考えていきたい。

Q 伊東 活動を記録する中で場所性が記録できると、もっとまちづくりとの関連が見えてくるのではないかと。

子どもと一緒にデザインする環境づくり

子どもと一緒にデザインしよう会【初参加、助成金30万円】

私たちはお祭りなどをメインに、子どもと地域の関わりづくりをしてきた。大切なポイントは継続性だと思い、毎月、小学校が週休2日制の第1、第3土曜日に「まちたちっ！」という名で街探検を1年



間行った。一番町祭り「こどもなんでも市」では企画から子どもたちと関わり、自分たちで祭りをつくる楽しさを知り、自信にもなればと企画した。

「昔あそびをしよう！」では子どもたちにお正月の遊びを祖父母に聞いてもらい、児童館で一緒に作り、遊び、持ち帰って家でもお正月に遊んでもらった。巨大福笑いを作り、みんなで目隠しをして遊んだり、世代を超えたコミュニケーションができたと思う。

「空間をつくろう！」では、春夏秋冬のテーマで空間を手作りして、その楽しさを味わう。地元の中高校生も一緒に参加、

イメージ空間を体験した。「あしあーと」では、神田三町会合同子ども縁日で、足で絵を描くイベントを開催。お祭りや縁日のパワーを巨大アートにしてみんなで作り上げる喜びを分かち合った。作品は持ち帰った他に盆踊り会場やNTTでも展示された。

「未来の絵日記教室」は、富士見小学校の子どもたちにまちの写真を撮って未来の絵日記を作ってもらった。その場所が将来どうなるかを考えることになった。

現在も行っているのが、ぼくたちもだち「まちたちっ！」。まちの人の願い事を布に書いてもらい巨大天の川をつかった。他にも「まちクイズ大会」をグループでやり、「色マップづくり」は、まちのある場所に立って感じる色を塗ってマップを作る試み。

また「風景かるた大会」では学校から見える風景を写真に撮り、俳句も作り、

アートを媒介に街の活性化はかる

千代田活性化アート活動研究会【参加2年、助成金50万円】

(IBSOBART実行委員会)

前半、去年のソバートの成果を振り返り、反省も加えて話し合ったが、今年の方角性を見つけるのに苦労した。後半になってつかんだのが、岩本町繊維問屋街のまちおこし「とんやあーと」で、11月に開いた。

もう一つは、街づくりハウス「アキバ」をどう活用するか。アーティストとまちづくりの起爆剤になる人たちに、区内で空いているスペースを貸し出すための橋渡し役になること。私たちがつなぎ役になれば、アートの拠点になるのではないか。

そのリサーチのために現代アーティストと物を創るアーティストのアンケートをとった。アトリエにかかる費用などはプライベートなことへの言及なので、200通出したうちの73通が戻り、それはかなり真摯な回答だと思う。

千代田区に住みたいとか、住んでいる人たちの中で、アトリエを持っているのは37%。展覧会などで活動している作家

が多いのだが、住居兼アトリエで活動している人が53%、その約半数が6~8畳の間。73%の人がスペース、アトリエを持ちたいと思っている。その半数は千代田区に住みたい、しかも79%の人が地域に貢献したいと答えている。

地域への関わりを持ちたいか、の問いにノーと答えた人はゼロ。短期的なレンタルスペースの要求が高いことと合わせて街づくりハウス「アキバ」の活用を考えた。スペースをアーティストに貸出し、年に何回かは地域の人とワークショップをしたりする。私たちはそのスタッフとして管理人代金を会に還元する。

11月に開いた、岩本町の「とんやあーと」というバザールではイメージアップできる作家の作品

を展示した。また布を使ったワークショップやギャラリー・カフェをやった。そのチラシのデザインをアートの制作した。

将来的には「なみ布アート展」を公募展として開き、Tシャツやエプロンのデザインを考えて提案。また、「アートオブザ岩本町」として街にアートオブジェを点在させ、それを加えて岩本町のマップを制作したい。

☆

Q 渡辺 公社だけでなく、ネットワークのつながりを説明して下さい。

A 岩本町のバザールが長年継続していると聞いて、その中心の人に面会した。周りへの広がりはいずれの課題。



高齢者と「千代田の昔遊び」冊子作り

(NPO)学習環境デザイン工房【初参加、助成金30万円】

地域の高齢者にボランティア活動の場とスキルの提供として、パソコン教室を開いた。内容は「昔遊び」を小学生向けに紹介する小冊子をワープロソフトを使って作る。作った冊子を地元の小学校で使ってもらい、高齢者から子どもたちに教えてもらう。

募集はボランティアセンターと新聞の都民版に案内を出し、区内の出張所にチラシを置いた。最も反応があったのは新聞。参加者は50歳代が30%、60歳代と40歳代が20%強、1人だけ70歳代の元気な方。キーボードに慣れるために「サラリーマン川柳」を打ち込んだ。

昔の暮らしを思い出してもらうように昔の道具の写真を机に並べ、自由に見られるようにした。参加者1人にスタッフ1人を付け、高齢者の方が昔のことを話したくなるような状況をつかった。

冊子には、その人の道具の思い出、使い方などが書かれている。参加者のプロフィールと写真をつけたので、より身近になった。

配付前に3人の先生方に見ていただき評価してもらった。漢字が多くて難しいこと、文章が長すぎることを指摘された。さらに今と昔の結びつきを説明したり、現代の道具も併せて載せてイメージをつかみやすくした。

冊子をきっかけに昔遊びなどの疑問を



高齢者の方に質問できる形にすると、授業に活かせるのではとアドバイスをいただいた。改良した冊子をお茶の水小学校に配り使ってもらっている。

実際、「昔の遊びは?」「竹トンボはどうやって飛ばすの?」など電話で質問があった。シニアの参加者で東さんにご回答いただき、ファクシミリでやりとりした。教科書の「みんな子どもだった」という単元で利用されている。

☆

Q 平岩 第三者の専門家を集めて評価会議をしたのは注目される。冊子の改定にも参加者がぜひ継続的に関わり、進んでやれるとさらに発展していくと思う。参加者の男女比はどのくらいか?

A 当日の参加者は14名で、男性が4名、女性10名だった。できるだけ連絡を取り合って継続していきたい。

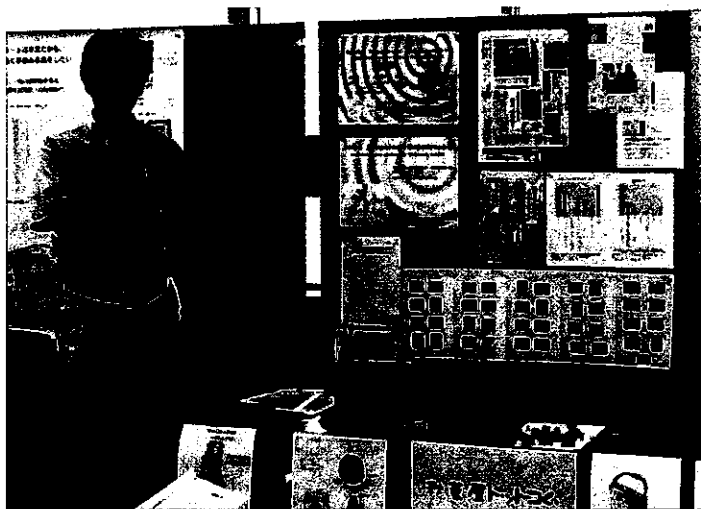
Q 田畑 お茶の水小学校だけでなく、他の学校にも、ぜひ広めてほしい。

Q 北沢 参加高齢者のスキルをアップしてまちづくりや子どもたちの学習を手伝うなど、ボランティアとして展開してほしい。HPもできるなら、メンテナンスをやってもらえると、子どもたちもメールを使うから交流できると思う。

A その方向で、HPの活用と冊子を一緒に考えている。

秋葉原で発掘した廃材でアート企画展

秋葉屋ドットコム【初参加、助成金40万円】



ジオ会館などを学生さんに見てもらってイメージを描いてもらった。デザインにはあまり口を出さず、絵コンテを募集したら七十数点集まった。部品も秋葉原で揃えた。ヒューズで作ったベルトや、電子部品で作った盆栽など、学生の感性に驚いた。アンケートによると、アキバのイメ

きょうは、出来上がった作品を何点か持ってきた。東北芸術工科大学、日本工学院専門学校、東洋美術学校の3人の先生方にお願ひし、制作する学生さんを確保した。授業の一環でやってくれた学校もあった。

秋葉原の1坪ショップやガード下のラ

ジとして今後どのようなまちになればいいかという問いには、女性も来られるおしゃれな楽しい街というのが多かった。

意外にもマスコミの反響が大きくて驚いたほど(日本経済新聞、東京新聞、読売新聞、NHKラジオ、MXテレビ)。

短時間で予想以上のことができたと満足している。商品化してほしいなどの要望もあったし、ユニークなアイデアが多かったのも、時間とお金とエネルギーがあれば、実現したい。

☆

Q 渡辺 参加した学生さんの感想文がとてもおもしろかった。ただ、地域でご商売をしている方たちとのつながりが希薄だという反省点が出ているが、具体的には何か問題があったのか?

A 振興会の方に協力をお願いして廃材を集めたかったのだが、電気街は新品の電気製品を売る街だから無理があった。やはり、学生のように秋葉原の外からやってくる人と地元の商店街の人とギャップがある。我々への評価も違い、理解してもらう努力がいる。

Q 平岩 企業はいま環境問題に関心を持っていて、リサイクルとかリユーズをやるとうする動きがある。企業の社会貢献として、電気メーカーに協力を求めるアイデアは、どうか?

A 電子部品は技術の企業秘密にも当たるので、簡単に材料を出せないようだ。アーティストが見る目と全く違う。

番町・麹町地区の文化人マップ三部作完成

番町まちづくり文学館【参加3年、助成金50万円】

思えば3年前「番町文芸地図」の六番町編を制作、2年目は二番町、四番町、五番町編を発行した。今回は、一番町・三番町編と、さらに旧番町地区に隣接の麹町地区も合わせて番町・麹町地区編と、三部作が完成した。

のべ120名が3年間、膨大な資料あさりをした成果で感無量である。一応今回で卒業ということだ。

森まゆみ先生のご協力で行った文芸講演会や区の活

性化事業の「祭 江戸サンさん千代田」などで文芸地図を配付できて、さらに地域の資料収集もできた。いつかは総集編にまとめたい。また文芸地図カレンダーも企画している。



文化と教育の町を標榜する千代田区で、最終的には文学館の設立へ再挑戦だが、まず、バーチャルなインターネット上の「文学館」を計画している。旧番町出張所の活用も働きかけたい。

☆

Q 平岩 このように箱ものからでなく、ソフトから始めれば、良いものができるはず。文学館の可能性もあると思う。今後もぜひ頑張ってください。

Q 伊東 箱もの、空間に向かうもう一つ前のステージがあるのではないかと。明治以降現代までの文学者にまつわる地域図書館とか、コミュニティとの関連など、ぜひ継続して下さい。

そのおもしろさが行政を動かすのではないかと。思う。

Q 卯月 建物よりその周辺地図を作り、それをどう活用し、地域の人々が地域の問題を共有できるか。子どもたちや新住民にもアピールする方法を探り、学校の中に資料館があればいいなどとイメージを広げてほしい。

花を通じて、やさしいまちづくり

花・風の会【初参加、助成金30万円】

ゴミだらけの町を掃除し、西向きで難しいといわれた所に花を咲かせた。日本人も外国人も喜ぶ街角を目指す。区が開放してくれた空き地などの土地を借りられたので、サポートの助成を受けて花を植え、まちに“風”を興した。

毎朝6時半に街路を清掃して、花に水をやる。毎月1回の例会でミーティングをし、花の植え替えや土壌の整備をしている。1年間、清潔で安全な憩いのあるまちへ、少しは貢献できたと思う。

飯田橋町会の地域活動にも積極的に参加してこの会も知られるよ

うになった。同町会長さんも協力してくれ、私も清掃環境委員に推されて一緒に活動している。

皇居から飯田橋の通りでも、夜になると薄暗い公園などで街路樹も樹木ばかり

で花がない。カラスとゴミばかりの公園を、心休まる花や清掃で明るくしていきたいと思っている。

今年は通りのコスモスも朝顔もきれいに咲いて、みなさんに喜ばれた。

☆

Q 田畑 すごく街がきれいになった。今後、今回の経験から広がるもの、町会との関係などについて聞かせて下さい。

A 町会の祭の寄付金を集めた。よく花のことで声をかけられる。清掃に参加してくれる地域の人も現れた。都営住宅の公園にも、九段通りの公園にも花の種を蒔いた。いろんな人が花のことを、種や挿し木についても教えてくれる。



花のかけ橋で心豊かなふれあいを

花咲かじいさん【参加3年、助成金50万円】

私たちは、ただひたすら3年間、花を植えて、地道に1年に3~4回の花入れの作業をしてきた。参加されるみなさん、富士見小学校の子どもたちや親子で楽しむ花入れ会。そのお手伝いをお願いのチラシを毎回学校でも配っていただき、活動を継続できた。

その結果、町内会や地域の行事に参加する機会を得た。この間は江戸開府400年の活性化事業でさくら草の品評会に招かれて参加した。

みなさまが案じて下さったように、サポートを卒業したら助成金なくなる。けれど、活動は「永遠に不滅」にしていきたい。そこでバザーを開くことになった。里親さんの協力で、サンデーショップ「趣味の部屋」を開催。あえて古着や不用品ではなく、アクセサリ、ステンドグラス、花の苗、陶器、人形など手作りの物を作って開くことにした。

これからも花屋、陶芸家さんなど地域の皆様にも出品していただく。

千代田区アダプトシステムの調印式も

済み、さっそく新しい花鉢を購入、行政からは土、カゴ、花など現物支給してもらった。今後も行政や市民の皆様と汗を流して活動を広げていきたい。

☆

Q 伊東 サポートのモデルとなるような活動ですばらしい。行政が無関心になると困ると思ったが、今のお話で安心した。私の持論のくタウンスペースの大切さ>からいうと、サンデーショップ

への展開は何より重要で、都市の空洞化、シェアから考えて21世紀の都市にとってとても大切なテーマだ。そこまで行ったのはすごい。

Q 渡辺 すばらしいのは、どんどん輪が

広がっていくこと。お金をかけないでもできるということ。一つのお手本となる活動を今後も、ぜひ広げてほしい。

Q 平岩 この広がり、行政と協力できたことに感銘を受け、心から共に喜びたい。このノウハウを活かし、市民ならではの方法を「花・風の会」や他のグループへもシフトさせてくれればうれしい限り。



Q 北沢 もう3年もたったかと思う。花カゴもスタート時からいろいろ工夫されてきた。行政と手を結べた経験談を、ぜひ整理して、他へ伝えて下さい。



まちづくりをするのに、どうやって人の輪を広げるか、人の心を動かすかが大事なことになる。その時、子ども、食べる、花、アートなどのキーワードが出てくる。そこに共通しているのは何かといえば、＜感性＞なのだと思う。

理論的にこれが必要だと資金とか、それも重要だが、それ以上に、人の気持ちを動かすのは理論ではない。人間の

感性に訴えるものがあるのかないのか、ということだ。

2つ目に思ったことは、サポートの3年という期限について。今回、2つのグループが卒業したが、以前から、3年の期限については議論があった。

短かすぎないかということだったが、きょう伺っていて、3年でよかったと思った。というのは、今回も1年組と2年組と3年組とあったが、その展開の仕方が見えてきたような気がした。

1年目は、それまで温めていた企画を始めてみるわけだから、ものすごいエネルギーがある。企画書を見るよりも、発表者のエネルギーが伝わってきて、分からないけど信頼するからやってみてよと言いたくなる。

2年目になると、悩み始める。1年活動してみて、また継続するとは言ったけれど、どうやってつなげればいいのか。やはり悩む。

3年目になると、まだ壁が見えてくるのだろうが、とにかく1、2年目の課題をクリアして、原点に戻りつつ、達成したものが共有の意志として自信や誇りとなる。やはり、3年を区切りとして、次のステップにいくのは妥当であろう。

「花咲かじいさん」も去年は悩んでいた。助成金が切れたら、ボランティアの気持ちだけでは続かない。みんなで悩んで、一

つの解決方法としてバザール、サンデーショップを考えた。これはすばらしく、みんなの共有財産になった。

ですから、1年、2年、3年というのは、それぞれの段階にそれぞれの悩みはあるが、それを解決しようとするグループの力と、それを支えるサポーターズクラブの力によって、3年間の形が見えてきた。そのことに感動した。

3つ目に、他のいろいろな地区でも、このサポートのようなまちづくり活動が増えてきた。その中で千代田の助成グループは今回8つしかないのに、ほとんどが新聞、テレビ、ラジオなどで取材を受けている。その理由は何か？

千代田区は、まさにオフィス街で、住むというよりは働くまちである。にもかかわらず、市民運動としてまちづくり活動が意外に盛んである。あの千代田でできるなら他でなぜできないのか。そういう見方があるのではないだろうか。

それが、横と縦のネットワークを広げることになった。じわじわと区民にも、区民以外の方にも伝わることになった。積極的にマスコミの力も活用していくべきではないか。

最後に、このような発表会や交流会でこのサポート活動の成果が、その日で終わり、内部だけで外へ伝わらないのが大変残念だと指摘されてきた。

そこで、公社とサポーターズクラブでこの4年間の成果をまとめて記録する努力をしてほしい。この場で、私からお願いしたいと思う。

まちづくりというのは、常に、その地域で行われている特殊な回答だと言われている。しかし、その中には必ず、普遍的な回答がある。たとえば、子どもを対象とすると必ず広がりが出るというのは完全に普遍的な回答だ。

このサポートのまちづくりのなかでそういう実践を示したレポートをぜひやりましょう。後に続く人のためにもやりたいと思う。

審査委員講評

地域文化の担い手は行政を動かす

伊東 敏雄(賛助会員)

きょうの8グループの発表を伺い、まちづくりの流れの新しい動きを感じた。それぞれの活動がまるでドミノゲームのように、まず住民を動かし、その動きが行政に伝わり、それが企業をも動かして社会全体を動かす力になっていくように思った。

「番町まちづくり文学館」は、一つのコミュニティスペースを創るためのしかけづくりを、今後、私も審査委員を卒業するので住民として加えていただいて、一緒に活動させて下さい。

「花咲かじいさん」は、コミュニティボランティアの正攻法で、成功を納めた。実は、サンデーショップへの展開はみなさん自身が考えているよりも、もっとすごいことだということ意識をもって、活動してほしいと思う。

「江戸神田蕎麦の会」は、すばらしい発展で、地域文化の担い手になっている。いい店はいいまちをつくるという発想が、いい行政もつくるというところまでいくのではないか。老人福祉のことまで関わっていくわけで、ぜひ頑張ってください。

「千代田活性化アート活動研究会」は、いろいろ問題があっ



たが、街づくりハウス「アキバ」のアトリエのご提案はぜひ続けてほしい。現代邦楽のミュージシャンなども利用できるオープンスタジオや、芸術文化のオープンステージなども構想していただけるとありがたい。

「学習環境デザイン工房」は、古い道具や遊具のみでなく、その周りの環境まで触れていくといい。

「秋葉屋ドットコム」は、物を作って売れるグッズの提案は以前にもあった。テレビもアナログからデジタルになり、いずれは店頭のテレビの半分は使えなくなる時代がくる。秋葉原のイメージは、テレビをビルくらい積み重ねたようなメガアート、スペースアートではないか。パソコンのがらくたでジャングルジムを作るとか、ご検討いただきたい。

「花・風の会」は、あの土臭い、素朴な話し方も、大変貴重なものだと思う。

「子どもと一緒にデザインしよう会」は、その活動、動き自体が一種のグループパフォーマンス、即興的な芸術行為のように見えてきて、すてきだ。そのシェルター、空間をどうするかというレポートまで収めてくれればと思う。

活動を継続してさらに深まりを

北沢 猛(東京大学助教授)



きょうの発表で感じたのは、広がりと同時に深まりが出てきたこと。これまでの借り物の方法論からオリジナルな方法論、考え方へと変わり、実際にそれぞれのグループがプロとしてやっていけるようなレベルになったと思った。

この深まりをさらに追求してほしい。特に学校、子どもたちへ広がった上に、高校生が関わったことはサポート始まって以来のこと。「子どもと一緒にデザインしよう会」は、ぜひ取り組みを整理して教科書として残していただきたい。

「花・風の会」の発表にも毎回感動している。そのパワーを継続して下さい。「秋葉屋ドットコム」は廃材の再利用にアートを取り入れたことが新鮮だ。製品化されることを期待したい。「学習環境デザイン工房」はシニアたちとの関係を深めて持続して欲しい。

「千代田活性化アート活動研究会」はめでたく留年になったが、まちづくりとアートをどう結び付けるかの考え方と実際の活動とのズレがあるのではないかな。

「江戸神田蕎麦の会」には感服。今回はさらにバージョンアップして下さい。「花咲かじいさん」と「番町まちづくり文学館」については、充実した内容で深まりの出た活動だったが、いかに継続するか。ことに文学館は施設の作り方も含めて研究をしていただきたい。

世代・地域・企業ともネットワークを

平岩 千代子(電通研主任研究員・NPO理事)



特に印象に残ったことは、活動の広がりが多様になってきたこと。世代間や地域での広がり、そして各活動が行政や地域の商店街と組むという横の広がりが出てきたのはとてもおもしろい。

そこで、卒業される2団体もあるので、新しいつながりをご提案したい。

市民活動が発達してきて、いま企業でも90年代から社会貢献という形で市民団体を応援したり、自主事業を展開したりする動きが始まっている。

単に団体に寄付をするだけではなく、自分たちの本業を活かし、経営戦略のなかで、どう一般市民と、あるいは地域とつながっていこうかということが大きな課題となりつつある。

企業は利益を上げるだけではなく、新しい多くの市民から信頼を獲得するのが重要だからだ。その時に企業が自分たちだけで活動するのではなく、NPOや市民活動団体と組んで、より良い成果を出せないか、模索が続けられている。

千代田区にもフィランソロピー協会というサポートセンターがあり、企業とNPOを結び付ける、フィランソロピー・サミットを開いた。活動を発表する場を作り、多くの人に知ってもらう目的だ。

千代田区内に止まらず、企業とのつながり、新しいネットワークを考えてほしい。そして多くの共感者を得て、ますます活動が発展することを願っている。

地道な活動の成果に感動

田畑 秀二(江都天下祭研究会 神田倶楽部会長・まちづくりサポートOB)



今回卒業の「番町まちづくり文学館」と「花咲かじいさん」は、さすがは地道な活動でまだまだ広がりのある会と期待し、また感動している。

「江戸神田蕎麦の会」は、案じていたが、良い意味で化けてくれたと思う。良い活動内容の発表だった。

「学習環境デザイン工房」はこれからもっと頑張って、発展して欲しい。

「秋葉屋ドットコム」は、まだまだクリアーしなければならない部分があるかと思うので、頑張ってください。『「花・風の会」は、発表でも風を興すとのことでした。少しずつ、興して、大きな風になってほしいと思う。』

「子どもと一緒にデザインしよう会」は、助成を受けて以来の発展があまりにすごいので驚いている。これからの広がりがどこまでいくのかなと期待している。

全体として、毎年見てきまして、価値観の差はあると思うが、一部を除いて、このサポートの総額300万円の限界に近いところまでできていると思った。

行政に頼らず人間的なネットがすばらしい

渡辺 滋(千代田区まちづくり推進部長)



「番町まちづくり文学館」は完成度が高く、アウトプットそのものに価値があり、今後もさらに発展できる。

「花咲かじいさん」のこの広がり方がすばらしい。大事なものは自立の精神、手作りの、お金をかけない活動。かつ、地域への愛着を育てていく動きだ。

「江戸神田蕎麦の会」は、「子どもと一緒にデザインしよう会」とリンクしながら、子どもを中心に、子どものアイデアを実現したことがすばらしい。

「千代田活性化アート活動研究会」は専門家同士で終わらせるのではなく、周りと連携して、地域と関わりながら活動していく芽は出ているので期待する。

「学習環境デザイン工房」は、あえて教育という枠の中に入って活動するチャレンジ。特に世代の双方向性についてぜひ、頑張ってください。

「秋葉屋ドットコム」の試みは興味深い。どういうまちづくりになっていくのか期待する。

「花・風の会」も、まちがきれいになって、ゴミを拾ってくれる人も出てきたのが、うれしい。

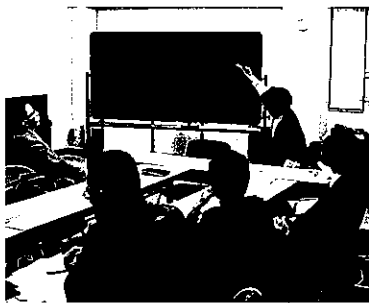
「子どもと一緒にデザインしよう会」は、親と子をつなげながら、ネットが広がるだけでなく、後に続く子どもたちがやってみようと思える活動になってほしい。

行政に頼るのではなく、人間的なネットを使いながら実現する。それがすばらしいと思った。

◆千代田まちづくりサポーターズクラブ(CSC)◆

CSCの活動

「サポーターズクラブ」は、「千代田まちづくりサポート事業」に参加した様々な市民グループや個人同士が横につながり、情報交流しながら、市民が主体となる千代田のまちづくりを活性化し、これをサポートしていこう、というものです。CSCでは、以下の活動を始めています。



▲定例会で議論するメンバー

①サポート事業に関わる方々の情報交流の場づくり

「サポート事業」のOBまたはCSCの活動に賛同する個人、グループ等の方を会員として、その相互交流、情報交換できる場づくりを進めています。現在、メーリングリストとホームページで情報交流のプラットフォームづくりを進めています。ホームページは一般公開しています。順次、充実を図ってまいりますので、是非一度ご覧下さい。

また、定例会を開催して、フェースツーフェースで相互交流を図っています。

②サポート事業の支援活動

中間発表会や成果発表会への支援、企画・提案等について意見交換し、支援活動を行っています。これまでも発表会の進行や運営支援、発表会後の懇親会の開催などを行ってきました。

③その他プロジェクト

今後、CSCの活動の一環として、様々な市民活動グループ同士が交流し合える場づくり、区内の法人企業に対するサポート事業のPRなど、独自のプロジェクトを進めるべく検討中です。

CSCに参加するには

上記の趣意に賛同していただける方は、誰でもクラブの活動に参加することができます。会の連絡は基本的にメーリングリストで行っています。メーリングリストに登録することで参加の手続きは完了です。電子メールでは定例会のご案内ほか、各グループの活動情報、まちづくりに関係する情報やイベント情報を配信しています。

希望される方は、住所、氏名、電子メールアドレスを明記の上、事務局あてにメールをお送りください。参加は、個人単位でも、グループ単位でも結構です。電子メールを使えない方には、年間5回程度、活動報告を郵送で送ることも可能です。(郵便参加をご希望の方は、郵送先の住所を事務局宛にお知らせ下さい。また、年5回の郵送料手代400円を別途いただくことになります。)

参加申込、お問い合わせは以下までお願い致します。

CSC事務局

- ホームページ <http://members.jcom.home.ne.jp/mati-club/>
- 事務局宛 E-mail: csc-jimu@sml-z1.infoseek.co.jp
- 郵便宛先 102-0074 千代田区九段南1-6-17 千代田会館2階
(財)千代田区街づくり推進公社気付
「千代田まちづくりサポーターズクラブ事務局」宛
- 電話 090-2410-2911(三原)

(財)千代田区街づくり推進公社賛助会員一覧(法人93社・個人62名・計155)

2002年12月1日現在

※この事業は下記の法人会員と個人会員の会費で運営されています

賛助会員名簿(個人)

青木 孝次
安孫子 政夫
伊東 敏雄
犬伏 真
今堀 信明
角地 登志子
加藤 武夫
島田 洋一
須藤 昭雄
東宮 哲哉
戸田 豊重
二木 憲一
早川 平典
堀部 剛正
松谷 優子
三輪 瑛子
山内 秀男
山中 富太郎
渡邊 和
鈴木 勉
川原 くに子
他40人

(株)大和銀行
(株)東京都民銀行神田支店
(株)東京三菱銀行
(株)東日本銀行飯田橋支店
みずほアセット信託銀行(株)
(株)わかしお銀行本店営業

〈建築・土木関係〉
大木建設(株)
(株)大林組東京本社
大林道路(株)関東支店
鹿島建設(株)東京支店
鹿島道路(株)
(株)久保工
(株)熊谷組東京支店
古久根建設(株)
五洋建設(株)
佐藤工業(株)
清水建設(株)東京支店地域営業部
(株)銭高組東京支社
大末建設(株)
大成建設(株)
高砂熱学工業(株)東京本店
(株)竹中工務店
中央建設(株)
鉄建建設(株)
東京舗装工業(株)関東第一支店
東洋建設(株)建築事業本部
常磐工業(株)
戸田建設(株)東京支店
飛鳥建設(株)関東土木支店
飛鳥道路(株)関東支店
長野建設(株)東京本社
(株)ナカノコーポレーション
西松建設(株)
日東みらい建設(株)

(株)間組東京支店
前田建設工業(株)
真柄建設(株)東京支店
(株)増岡組東京支店
三井建設(株)

〈不動産関係〉
協永不動産(株)
(株)共立エステート
住友不動産(株)
(株)大京
大日本企業(株)
三井不動産(株)
三菱地所(株)
森トラスト(株)
安田不動産(株)

〈建設設計〉
(株)アーバン・ウイング
(株)アーバン・ラフィックエンジニアリング
(株)オール・アイ・イー
(株)アイテック計画
(株)ADプロジェクト
エヌティティ都市開発(株)
(株)エルイー創造研究所
NPO都市住宅とまちづくり研究会
(株)関東設計
(株)楠山設計
太平工業(株)東京支店
(株)都市環境計画研究所
日本橋興業(株)
パシフィックコンサルタンツ(株)
(株)日立建設設計
(株)ポリテック・エイディティ
(株)松田平田設計
マト設計・コンサル(株)

(株)山下設計
(株)ラウム計画設計研究所

〈ビル管理〉
鹿島建物総合管理(株)
東京美化(株)
本州ビル・メインテナンス(株)

〈広告代理業〉
(株)イサミヤ

〈緑化・環境関係〉
日産緑化(株)

〈コンサルタント〉
(株)都市デザインシステム
(株)エコプラン

〈駐車場管理〉
(株)総合駐車場コンサルタント(東京事務所)

〈電機・通信関係〉
三洋電機(株)

〈その他〉
秋葉原商店街振興組合
秋葉原中央商店街振興組合
秋葉原西口商店街振興組合
新日本監査法人
神保町一丁目南部地区市街地再開発組合
東京高速道路(株)
(社)東京都建築士事務所協会
(株)東京読売サービス
フィールファイン(株)
ヨシモトホール(株)

賛助会員名簿(法人)

〈保険関係〉
あいおい損害保険(株)
太陽生命保険相互会社
日本興亜損害保険(株)

〈金融関係〉
(株)あさひ銀行
興産信用金庫
太陽信用金庫神田支店